



「EVERYDAY HOLIDAY SQUAD」が制作した「towering wind」の「gate（門）」。

個展「under pressure」

青函トンネルから着想 ACAC

青森市の青森公立大学 不全など、昨今の社会問題
 際芸術センター青森（ACAC）を連想させる展示となつて
 AC）は、匿名アーティスト
 トグループ「EVERYDAY HOLIDAYS」をテーマ
 QUA（エブリデイ・ホリデイ・スクワッド）」に
 リデイ・スクワッド）」に
 による個展「under pressure」を開いて
 DE CORE（サイドコア）が監修した。エブリ
 ンネルに関するフィールド デイ・ホリデイ・スクワ
 ワークから着想を得て、展 示場内に風を起こす巨大な
 装置を制作した。「環境の循環」をキーワードにして
 おり、新型コロナウィルス禍の中での「換気」、公共
 インフラ維持における循環

今回の展示は、「風景にノイズを起こす」をテーマに全国各地で活動している高須咲恵、松下徹、西広太志らによるグループ「SIDE CORE（サイドコア）」が監修した。エブリデイ・ホリデイ・スクワッドは、サイドコアとともに活動しており、アーティスト、キュレーター、映像作家らが参加している。ストリートカルチャーの視点から都市空間やルールに介入していく作品を多く手掛

を考えた」と話した。

会場のギャラリーAには、送風機がいくつも積み上げられた巨大な作品群「towering wind」の三つがそびえる。その上から、かつてトンネル掘削の作業員たちが暮らしていた頃に見られたであろう風景などを描いていく様子を映す。

数分おきにファンが回って音とともに風が起き、トンネル内を思わせる同展示場の空気が入れ替わる。そのほか、青函トンネルや福島県の栗子隧道の写真に、スノーポールや立入禁止の看板が取り付けられた立体コージュ作品、映像作品などを展示している。映像は、現在の竜飛の風景の上にアクリル板を重ね、

展示は6月27日まで。問い合わせはACAC（電話番号017-764-5201）へ。

（山谷佳澄）